

再生可能エネルギーだけで日本一周!

「サステイナブルラン」

企画書

群馬県甘楽郡南牧村在住

三好直明

概要

コンバート EV に小型の再生可能エネルギー(以降、再エネ)による発電機(ピコ水力発電・木質バイオマス発電・太陽光発電)を積載、それらによって発電した電力のみで、全国で実践されている主にピコ水力発電施設(個人・企業・自治体問わず)等を訪問・取材し、その様子を YouTube で配信しながら日本一周に挑戦する

ねらい

- ① 個人・集落単位で実践可能な、小規模の再エネによる発電装置の現状把握と普及推進
(参考:水力発電のうち発電能力 1kw 以下のものをピコ水力発電と呼ぶ)
- ② 個人・中小企業で製作可能なコンバート EV (既存の自動車を EV 化したもの)の普及推進

企画立案の経緯

今年私たちは、福島原発事故発生から 10 年という節目を迎えました。ですがいまだ日本は「原子力緊急事態宣言」下にあります。現在、野生鳥獣肉の流通に自主規制がかかっている群馬県でジビエ料理にかかわる身としてはもちろん放射能汚染の影響です、まさに「今」の問題です。

そんな状況の中、政府は 2030 年代半ばまでにすべての新車の電動車 (EV・HV・PHV 等)化を目指すと発表しました。二酸化炭素削減のためのこの方針です。火力発電所の増・新設が進められるはずはなく、原発の再稼働や増・新設の格好の言い訳にされるのでは、と危惧しています。10 年前のあの日、近い将来には大手電力会社と縁を切りたいと考え、再エネによる発電が実践しやすいのではと、5 年前に群馬県の南牧村という山村に拠点を移した私です。原発再稼働の流れが強まることにはどうしても納得できません。ただ、いざ再

エネを活用しようと考えても河川法の縛りがあるだけでなく、大雨が降れば驚くほど水量が増し、常設型のピコ水力発電装置を設置することは難しく、そうこう考えているうちに原発事故から10年という年を迎えてしまいました。

今更ながら、何が行動しなければと思った時、EVに小さな再エネ利用の発電機を載せて日本一周をすれば、再エネの可能性を訴えるだけでなく、原発再稼働に物申すことができるのでは、と考えました。小さな再エネの発電機にこだわるのは、エネルギーの問題は個々人の問題としてとらえないと、いつまでたっても他人の域を出ないだろうと考えたからです。かつて吉田松陰が唱えた「草莽崛起」ではないですが、一人一人が実践者として行動し始めたら、再エネのすそ野が広がり、大きなうねりになっていくのではと思います。また個人的にも、自分が希望するスペックを有した発電機に出会えるのではという期待があり、大好きな旧車をEV化して各地を巡れたら楽しいだろうな、と考えています。

これから主流になっていくであろうEVをモノサシとして、再エネによる発電装置の現状と可能性を伝え、個人単位で扱える再エネ発電機の普及を推進するとともに、コンバートEVの楽しさを旅を通して伝え、大好きな旧車が元気に街中を走っている明日のための一助になれば、と思っています。

予算案

総額 400万円

内訳 車両製作費 200万円

活動経費 200万円

資金調達方法

後援企業及び後援団体による（現在募集中）

クラウドファンディング実施予定

実施予定

2021 秋